

第4章 本県の医療の概況

1 人口等の概況

【本県の概況】

- 人口減少や少子・高齢化が進行しており、令和5年4月現在で120万人を下回る
- 主要死因は老衰が増加
- 平均寿命は、男女ともに全国最下位（令和2年）
- 健康寿命は、男性42位、女性13位（令和元年）

（1）地勢等

本県は、本州の最北端に位置し、三方を海に囲まれ、津軽半島及び下北半島で陸奥湾を抱いたような地形であり、総面積は9,645.10km²で国土の2.6%に当たり、全国8位の広さを有しています。山地と河川によって形成された平野部には、青森市、弘前市、八戸市等を中心とした生活圏域が形成されています。

本県の気候は、本州最北の緯度にあるため、概して冷涼型ですが、県の中央部に位置する八甲田山をはじめとする奥羽山脈が県内を二分しているなど、海域や地形が複雑なことから、同じ県内でも、地域によって気候が大きく異なります。中でも、冬季における津軽地方の大雪と、夏季における太平洋側を中心とした偏東風（ヤマセ）が代表的な違いとなっています。

冬は、冷たく湿った空気が奥羽山脈にぶつかり津軽地方に雪を降らせる一方、太平洋側は、奥羽山脈が障壁となって乾燥した晴天の日が多いのが特徴です。

夏は、冷たく湿った偏東風（ヤマセ）が吹くため、太平洋側で低温・多湿の日が多くなります。

（2）交通

道路は、青森市を終点とする国道4号及び同7号が、本県の生活・産業の大動脈となっているほか、東北縦貫自動車道弘前線及び同八戸線により、東京方面と結ばれています。

鉄道は、新青森駅から東北新幹線により東京方面と、北海道新幹線により北海道と結ばれているほか、JR奥羽本線・八戸線・五能線・大湊線・津軽線、青い森鉄道線、IGRいわて銀河鉄道線、弘南鉄道大鰐線・弘南線、津軽鉄道線が、それぞれ県民の通勤、通学の重要な手段となっています。

航空は、青森空港に国内線と国際線、三沢空港に国内線が就航しています。

（3）人口

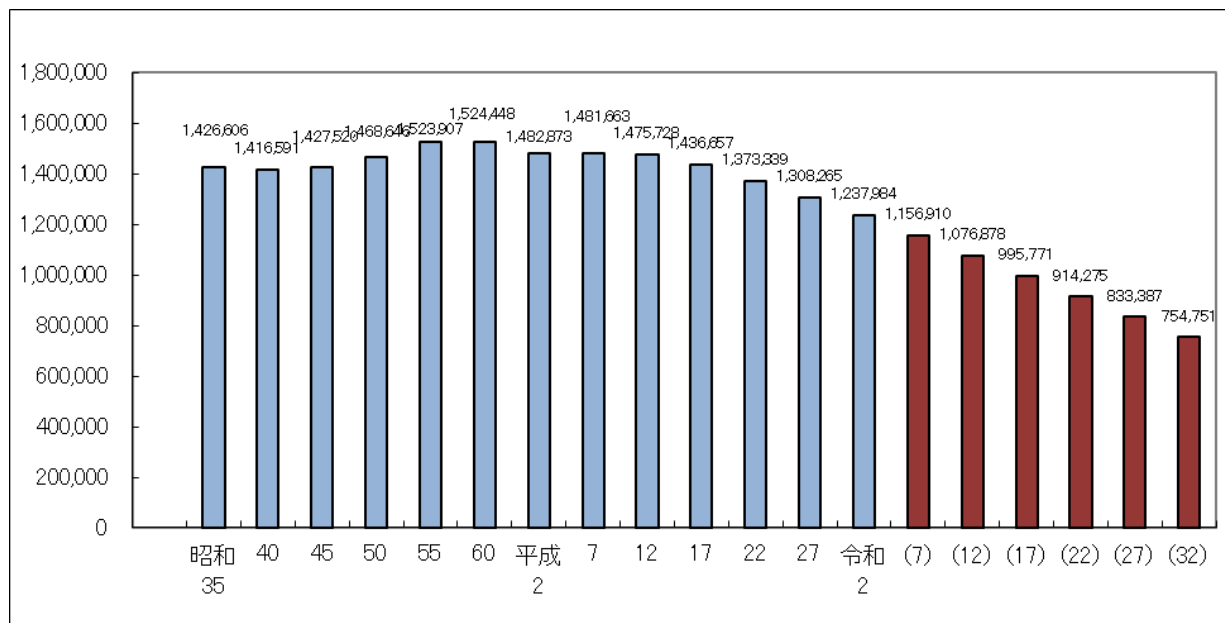
本県の人口は、令和2年10月1日現在、1,237,984人（国勢調査）で、男性583,402人（47.1%）、女性654,582人（52.9%）となっており、全国の男性48.7%、女性51.3%に比べ女性の構成比率が高くなっています。

なお、推計人口では、令和5年4月1日現在120万人を下回り、1,190,685人となっています。

人口の推移をみると、昭和40年以降増加傾向で推移していましたが、昭和55年～60年で横ばいとなり、昭和60年以降は減少傾向で推移しています。将来人口については、今後大きく減少していくものと見込まれています。（図1）

年齢別人口割合の推移をみると、15歳以上65歳未満の人口の割合及び15歳未満人口の割合が低下する一方、65歳以上の人口の割合が上昇しており、少子・高齢化が進行しています。今後、ますますこの傾向が顕著になると見込まれています。（図2）

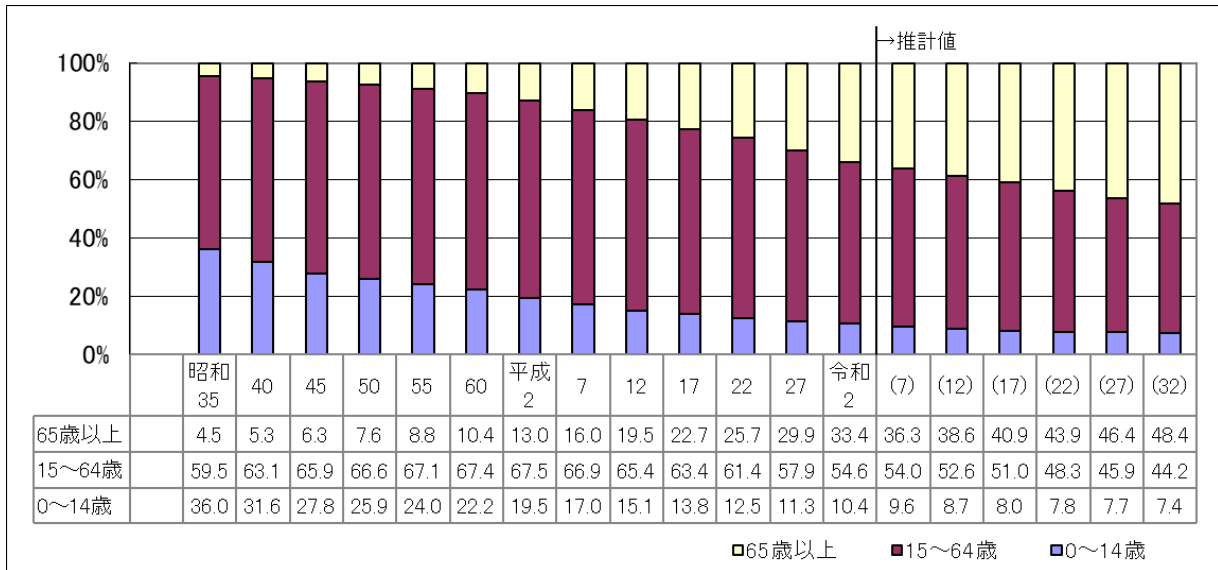
図1 青森県の人口の推移（令和7年以降は推計値）



資料：総務省「国勢調査」

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

図2 青森県の年齢（3区分）別人口の割合の推移（令和7年以降は推計値）



資料：総務省「国勢調査」

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

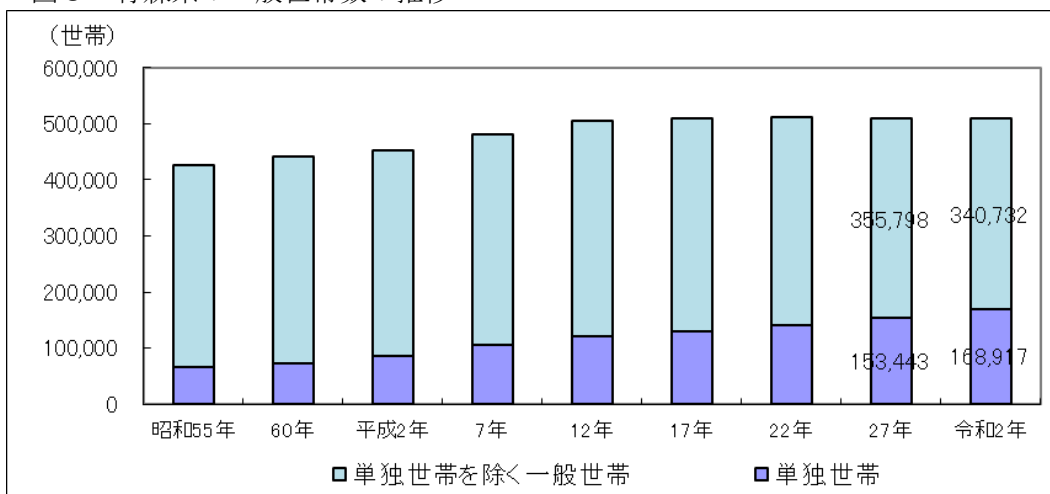
※ 割合の合計については、年齢不詳があることや年齢階級別に四捨五入した結果を表示していることから、100%にならない場合がある。

(4) 世帯

本県の一般世帯数は、令和2年10月1日現在、509,649世帯（令和2年国勢調査）で、平成27年と比べ408世帯（0.1%）の増となっており、このうち単独世帯は168,917世帯で15,474世帯（10.1%）の増となっています。（図3）

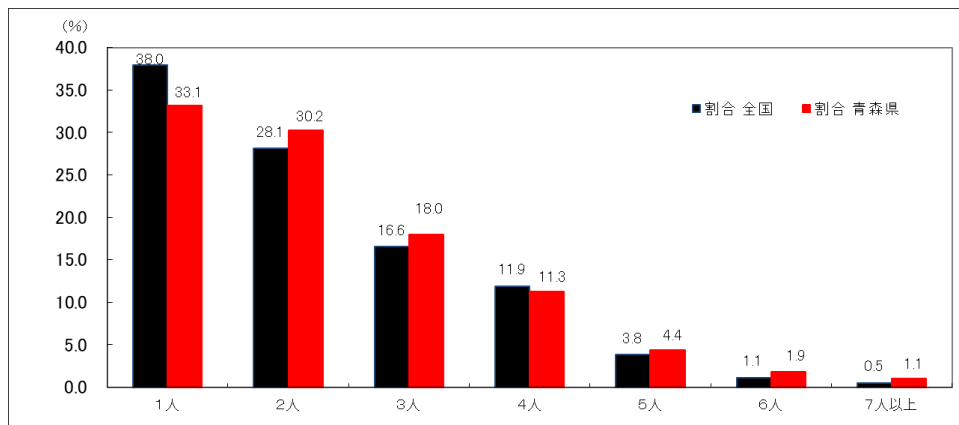
一般世帯の世帯人員割合をみると、単独世帯の割合では、本県は33.1%と全国平均の38.0%に比べて低く、逆に2人以上の世帯数の割合では、4人世帯を除き全国平均を上回っています。（図4）

図3 青森県の一般世帯数の推移



資料：総務省「国勢調査」

図4 青森県の一般世帯の世帯人員割合



資料：総務省「令和2年国勢調査」

(5) 人口動態

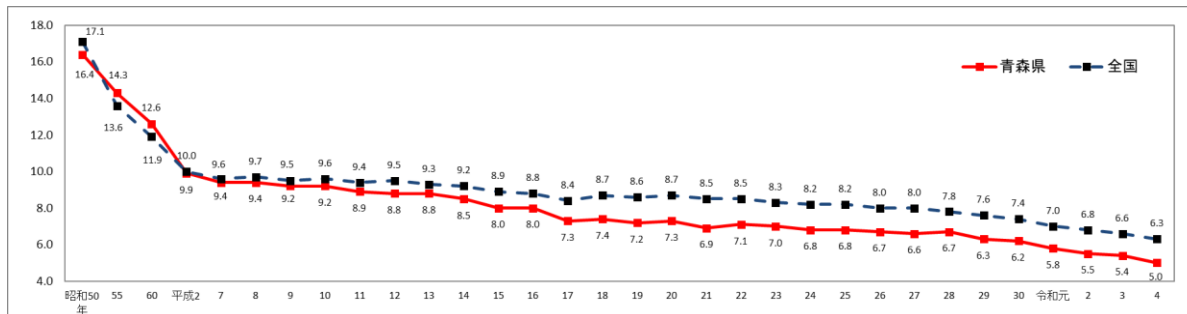
① 出生率と死亡率

ア 出生率

本県の出生率は減少傾向にあり、全国との比較（人口千対）では、令和4年は5.0で全国の6.3を1.3ポイント下回っています。（図5）

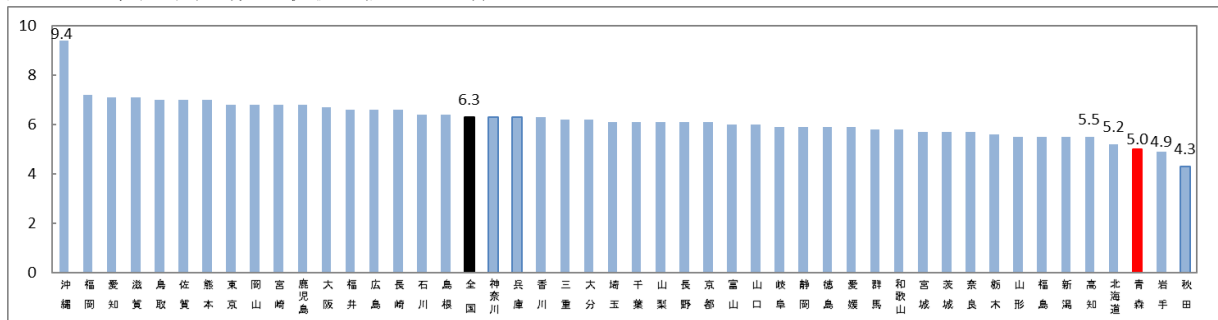
この出生率は、秋田県（4.3）、岩手県（4.9）に次いで低いものとなっています。（図4）

図5 出生率の年次推移（人口千対）



資料：厚生労働省「人口動態統計」

図6 全国の出生数の状況（人口千対）

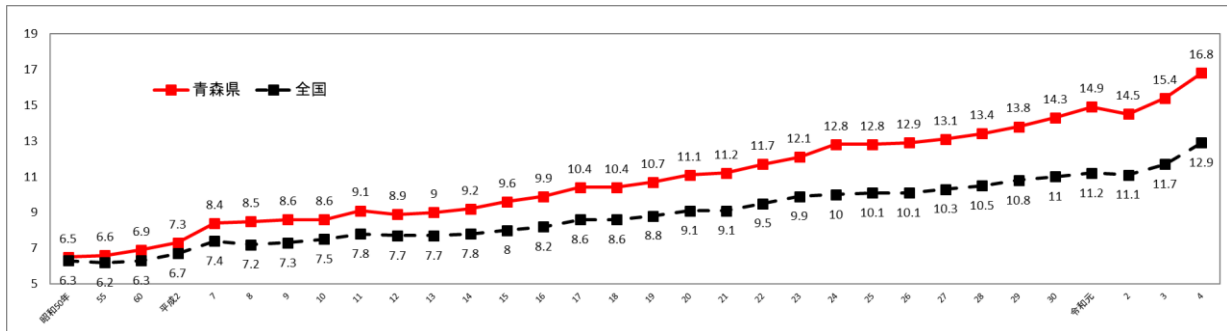


イ 死亡率

本県の死亡率は増加傾向にあり、また、全国値を上回って推移しています。令和4年は人口千対16.8で全国の12.9を3.9ポイント上回っています。(図7)

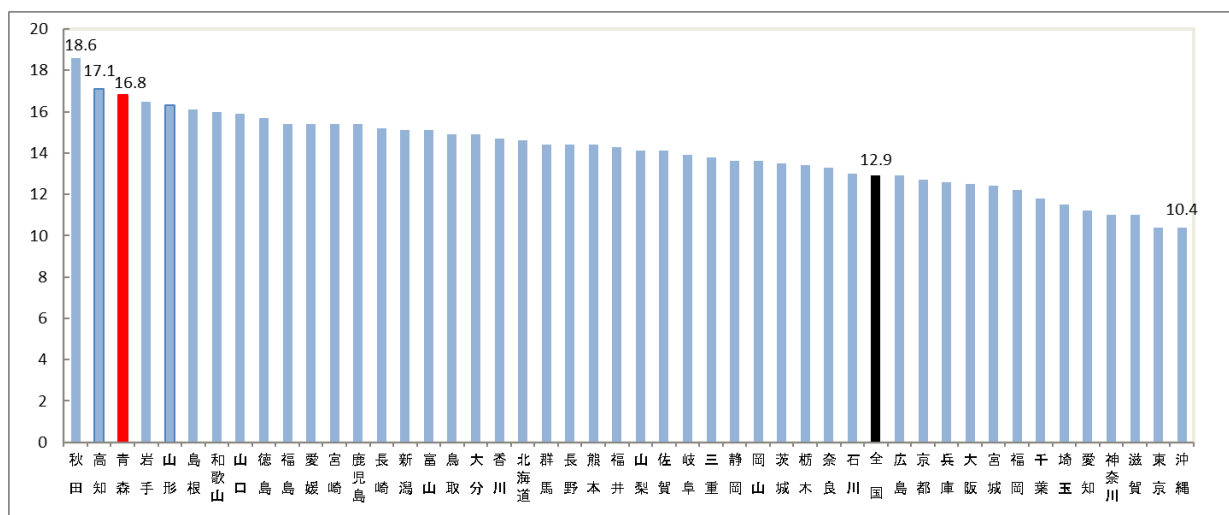
この死亡率は、秋田県(18.6)、高知県(17.1)に次いで高いものとなっています。(図8)

図7 死亡率の年次推移(人口千対)



資料：厚生労働省「人口動態統計」

図8 全国の死亡率(人口千対)の状況

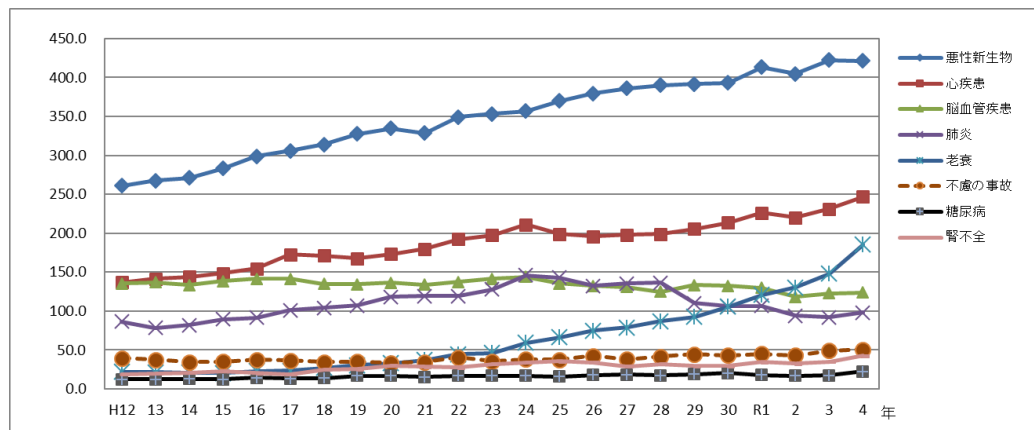


資料：厚生労働省「令和4年人口動態統計」

② 死因

本県の主要死因をみると、悪性新生物、心疾患、老衰、脳血管疾患等が上位を占めています。特に、高齢化に伴い老衰が年々増加しています。(図9)

図9 青森県の主要死因死亡率の年次推移 (人口10万対)



資料：厚生労働省「人口動態統計」

③ 年齢階級別の死因

年齢階級別の死因をみると、50歳から79歳までの各階層において「悪性新生物<腫瘍>」、「心疾患(高血圧性を除く)」、「脳血管疾患」が上位となっています。

また、10歳から54歳までの各階層において、「自殺」が上位となっています。(表1)

表1 年齢階級別の死因

	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
総数	悪性新生物<腫瘍>		心疾患(高血圧性を除く)		老衰		脳血管疾患		肺炎	
	5,135	(422.3)	2,810	(231.1)	1,801	(148.1)	1,496	(123.0)	1,118	(91.9)
0~4歳	(1~2位欄は同順位) 循環器系の先天奇形		(1~2位欄は同順位) 染色体異常,他に分類されないもの		(同順位の死因が複数あるため省略)					
	2	(5.6)	2	(5.6)						
5~9歳	循環器系の先天奇形									
	1	(2.3)								
10~14歳	自殺		(2~5位欄は同順位) 悪性新生物<腫瘍>		(2~5位欄は同順位) 心疾患(高血圧性を除く)		(2~5位欄は同順位) その他の症状,徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの		(2~5位欄は同順位) 不慮の事故	
	2	(4.2)	1	(2.1)	1	(2.1)	1	(2.1)	1	(2.1)
15~19歳	自殺		不慮の事故		心疾患(高血圧性を除く)					
	6	(11.5)	2	(3.8)	1	(1.9)				
20~24歳	自殺		その他の神経系の疾患		不慮の事故		(同順位の死因が複数あるため省略)			
	14	(31.8)	3	(6.8)	2	(4.5)				
25~29歳	自殺		不慮の事故		悪性新生物<腫瘍>		(同順位の死因が複数あるため省略)			
	19	(42.2)	4	(8.9)	3	(6.7)				
30~34歳	自殺		悪性新生物<腫瘍>		心疾患(高血圧性を除く)		(4~5位欄は同順位) 脳血管疾患		(4~5位欄は同順位) その他の消化器系の疾患	
	10	(19.6)	8	(15.7)	5	(9.8)	2	(3.9)	2	(3.9)
35~39歳	自殺		悪性新生物<腫瘍>		心疾患(高血圧性を除く)		不慮の事故		脳血管疾患	
	18	(28.1)	16	(25.0)	10	(15.6)	6	(9.4)	5	(7.8)
40~44歳	悪性新生物<腫瘍>		自殺		心疾患(高血圧性を除く)		(4~5位欄は同順位) 脳血管疾患		(4~5位欄は同順位) 不慮の事故	
	26	(35.1)	18	(24.3)	10	(13.5)	7	(9.5)	7	(9.5)
45~49歳	悪性新生物<腫瘍>		自殺		心疾患(高血圧性を除く)		脳血管疾患		不慮の事故	
	57	(66.3)	28	(32.6)	21	(24.4)	17	(19.8)	11	(12.8)
50~54歳	悪性新生物<腫瘍>		心疾患(高血圧性を除く)		自殺		脳血管疾患		その他の症状,徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	
	92	(108.2)	26	(30.6)	22	(25.9)	20	(23.5)	11	(12.9)
55~59歳	悪性新生物<腫瘍>		心疾患(高血圧性を除く)		脳血管疾患		その他の症状,徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの		(同順位の死因が複数あるため省略)	
	138	(168.3)	49	(59.8)	33	(40.2)	15	(18.3)		
60~64歳	悪性新生物<腫瘍>		心疾患(高血圧性を除く)		脳血管疾患		その他の症状,徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの		肝疾患	
	292	(328.1)	63	(70.8)	49	(55.1)	33	(37.1)	24	(27.0)
65~69歳	悪性新生物<腫瘍>		心疾患(高血圧性を除く)		脳血管疾患		その他の症状,徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの		不慮の事故	
	498	(508.2)	122	(124.5)	69	(70.4)	50	(51.0)	44	(44.9)
70~74歳	悪性新生物<腫瘍>		心疾患(高血圧性を除く)		脳血管疾患		不慮の事故		肺炎	
	843	(766.4)	190	(172.7)	136	(123.6)	73	(66.4)	72	(65.5)
75~79歳	悪性新生物<腫瘍>		心疾患(高血圧性を除く)		脳血管疾患		その他の呼吸器系の疾患		肺炎	
	715	(1,007.0)	230	(323.9)	144	(202.8)	102	(143.7)	94	(132.4)
80歳以上	悪性新生物<腫瘍>		心疾患(高血圧性を除く)		老衰		脳血管疾患		肺炎	
	2,446	(1,747.1)	2,080	(1,485.7)	1,748	(1,248.6)	1,014	(724.3)	887	(633.6)
65歳以上(再掲)	悪性新生物<腫瘍>		心疾患(高血圧性を除く)		老衰		脳血管疾患		肺炎	
	4,502	(1,074.5)	2,622	(625.8)	1,801	(429.8)	1,363	(325.3)	1,084	(258.7)

資料：厚生労働省「令和4年人口動態統計」

④ 平均寿命

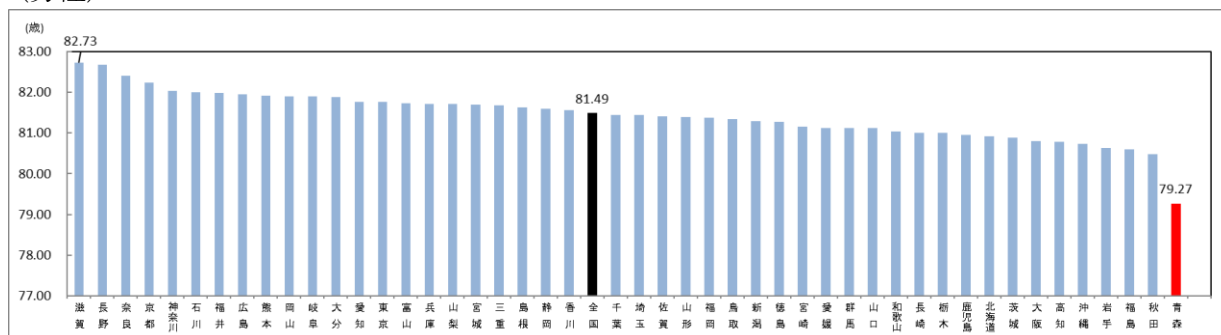
本県における平均寿命は、年々延びて令和2年には男性79.27歳、女性86.33歳となっていますが、全国順位は最下位となっています。(表2)

表2 平均寿命の推移

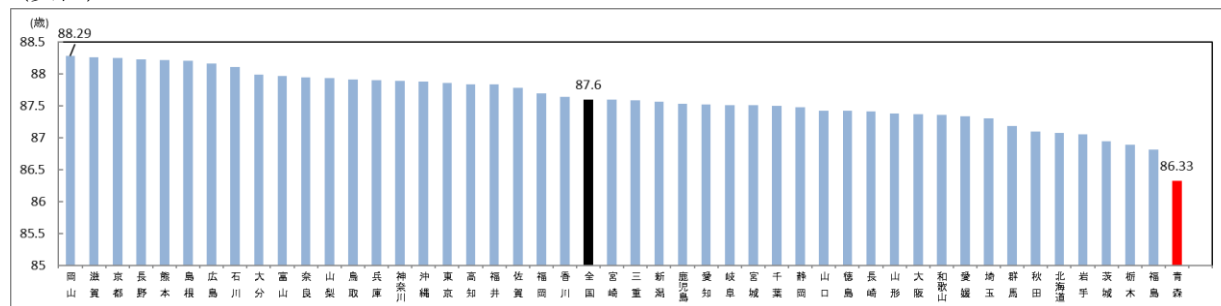
項目 年次	青森県					全国		
	男		女		男女差 (女-男)	男	女	男女差 (女-男)
	平均寿命 歳	順位	平均寿命 歳	順位		平均寿命 歳	平均寿命 歳	
昭和45年	67.82	45	74.68	32	6.86	69.84	75.23	5.39
50	69.69	47	76.50	35	6.81	71.79	77.01	5.22
55	71.41	47	78.39	44	6.98	73.57	79.00	5.43
60	73.05	47	79.90	46	6.85	74.95	80.75	5.80
平成2	74.18	47	81.49	45	7.31	76.04	82.07	6.03
7	74.71	47	82.51	46	7.80	76.72	83.22	6.50
12	75.67	47	83.69	47	8.02	77.71	84.62	6.91
17	76.27	47	84.80	47	8.53	78.79	85.75	6.96
22	77.28	47	85.34	47	8.06	79.59	86.35	6.76
27	78.67	47	85.93	47	7.26	80.77	87.01	6.24
令和2	79.27	47	86.33	47	7.06	81.49	87.60	6.11

資料：厚生労働省「都道府県別生命表」

図10 都道府県別平均寿命（令和2年）
（男性）



（女性）



⑤ 健康寿命

本県における平均寿命は、年々延びて令和元年には男性 71.73 歳、女性 76.05 歳となっており、全国順位は男性 42 位、女性 13 位となっています。(表 3)

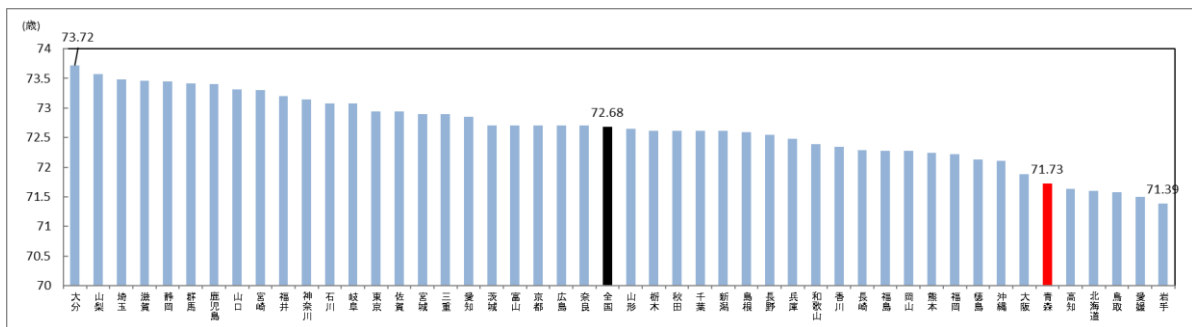
表 3 健康寿命の推移

項目 年次	青森県					全国		
	男		女		男女差 (女-男)	男	女	男女差 (女-男)
	健康寿命 歳	順位	健康寿命 歳	順位		健康寿命 歳	平均寿命 歳	
平成22	68.95	47	73.34	31	4.39	70.42	73.62	3.20
25	70.29	44	74.64	19	4.35	71.19	74.21	3.02
28	71.64	34	75.14	20	3.50	72.14	74.79	2.65
令和元	71.73	42	76.05	13	4.32	72.68	75.38	2.70

資料：厚生労働科学研究「健康寿命及び地域格差の分析と健康増進対策の効果検証に関する報告」

図 11 都道府県別健康寿命

(男性)



2 保健医療体制の概況

【本県の概況】

- 病床数は、病院 16,334 床、診療所 1,607 床で、人口 10 万対で比較すると全国を上回る
- 保健師、看護師及び准看護師は、人口 10 万対で比較すると全国を上回る
- 医師、歯科医師、薬剤師及び助産師は、人口 10 万対で比較すると全国を下回る

(1) 医療関係施設

① 病院

病院は、病床数が 20 床以上の医療を提供する施設で、県内には、令和 4 年 10 月 1 日現在、90 施設が設置されています。

人口 10 万対の病院数は 7.5 で、全国の 6.5 より若干上回っています。

開設者別にみると、市町村の開設が、全国 7.3% に対して、本県は 24.4% と多いのが特徴となっています。(表 4)

表 4 設置主体別病院数

区分	総数	国	都道府県	市町村	日赤	公的医療機関 その他	社会保険関係 団体	公益法人	医療法人	社会福祉法人	医療生協	その他の法人	個人
青森県	90 (7.5)	6	3	22	1	—	—	3	36	1	4	12	2
全国	8,156 (6.5)	316	188	599	91	317	47	188	5,658	200	79	347	126

()は人口10万対

資料：厚生労働省「令和 4 年医療施設調査」

② 診療所

診療所は、病床数が 19 床以下の医療を提供する施設で、県内には、令和 4 年 10 月 1 日現在、一般診療所 859 施設（うち有床診療所 117 施設）、歯科診療所 493 施設が設置されています。

人口 10 万対の施設数は、一般診療所が 71.3 で、全国の 84.2 を下回っていますが、有床診療所は 9.7 で、全国（4.8）の 2 倍以上となっています。また、歯科診療所は 40.9 で、全国の 54.2 を下回っています。(表 5)

表5 診療所数

区分	一般診療所		歯科診療所
		有床	
青森県	859 (71.3)	117 (9.7)	493 (40.9)
全国	105,182 (84.2)	5,958 (4.8)	67,755 (54.2)

()は人口10万対

資料：厚生労働省「令和4年医療施設調査」

③ 薬局

薬局は、薬剤師が医薬品の販売又は授与の目的で調剤の業務を行う場所で、令和4年度衛生行政報告例（厚生労働省）によると、令和4年度末で全国では62,375施設、本県では624施設となっています。また、人口10万対薬局数は、全国の49.9に対し、本県は51.8と若干上回っています。

④ その他の医療関係施設

ア 介護老人保健施設

介護老人保健施設は、要介護認定を受けた要介護者で、病状安定期にあり、入院治療するする必要はないが、リハビリテーション等の医療のケア及び日常生活の世話を必要とする者を対象とした施設で、令和5年4月1日現在、58施設あります（青森県高齢福祉保険課調べ）。

イ 助産所

助産所は、助産師が助産や妊婦、新生児の保健指導等を行う施設で、令和5年4月1日現在、18施設（うち分娩取扱い1施設）あります（青森県医療薬務課調べ）。

ウ 訪問看護ステーション

訪問看護ステーションは、在宅の難病患者、障がい者等の療養者に対して、医師の指示に基づき、看護師等が家庭に出向き、必要な看護サービス等の提供を行う施設で、令和5年4月1日現在、136施設あります（青森県医療薬務課調べ）。

エ 衛生検査所

衛生検査所は、人体から排出又は採取された検体について、医療機関に代わって微生物学的検査、血清学的検査等検体検査業務を行う場所として都道府県知事の登録を受けた施設で、令和5年4月1日現在、11施設あります（青森県医療薬務課調べ）。

⑤ 病床数

本県における医療施設の病床数は、令和4年10月1日現在、病院が16,334床、一般診療所が1,607床となっています。

病院の病床数を病床種別にみると、療養病床及び一般病床等が11,955床（構成比73.2%）、精神病床が4,317床（同26.4%）、結核病床が33床（同0.2%）、感染症病床29床（同0.2%）となっています。

また、人口10万対の病床数を全国と比較すると、本県は病院及び一般診療所とも全国を

上回っており、特に一般診療所の病床は全国の約2.1倍となっています。(表6)

表6 病院・診療所別病床数 (単位：床)

区分	病院	内訳				一般診療所
		療養病床及び一般病床	精神病床	結核病床	感染症病床	
青森県	16,334 (1356.6)	11,955 (992.9)	4,317 (358.6)	33 (2.7)	29 (2.4)	1,607 (133.5)
全国	1,492,957 (1194.9)	1,165,357 (932.6)	321,828 (257.6)	3,863 (3.1)	1,909 (1.5)	80,436 (64.4)

()は人口10万対

資料：厚生労働省「令和4年医療施設調査」

⑥ 病床利用率

本県における病床利用率は、精神病床、感染症病床、結核病床、療養病床及び一般病床が全国を下回っています。(表7)

表7 病院の病床利用率

	全病床	内訳					
		精神病床	感染症病床	結核病床	療養病床	一般病床	介護療養病床
青森県	71.8	80.3	286.8	24.4	82.9	65.0	82.0
全国	75.3	82.3	571.2	27.4	84.7	69.0	80.4

資料：厚生労働省「令和4年医療施設調査・病院報告」

⑦ 平均在院日数

本県における入院患者の平均在院日数は、感染症病床、結核病床、一般病床及び介護療養病床が全国より長くなっています。(表8)

表8 病院の平均在院日数

	全病床	内訳					
		精神病床	感染症病床	結核病床	療養病床	一般病床	介護療養病床
青森県	30.7	248.5	10.7	69.2	107.8	18.1	360.4
全国	27.3	276.7	10.5	44.5	126.5	16.2	307.8

資料：厚生労働省「令和4年医療施設調査・病院報告」

(2) 保健関係施設

① 保健所

令和5年4月1日現在、県設置6か所及び青森市、八戸市設置各1か所、計8か所の保健所があり、結核、エイズなどの感染症対策、難病患者等に対する相談支援、健康増進、生活衛生や、地域住民の保健水準の向上、精神保健等の地域保健活動を行っており、公衆衛生の専門機関としての役割を担っています。

② 精神保健福祉センター

精神保健福祉センターは県設置で1か所あり、精神保健福祉に関する知識の普及、調査研究、相談・指導などを行っています。

③ 市町村保健センター

市町村保健センターは、令和5年4月1日現在30市町村（厚生労働省公表）にあり、市町村における対人保健サービスや地域住民が行う自主的な保健活動の拠点としての役割を担っています。

④ 環境保健センター

環境保健センターは県設置で1か所あり、公衆衛生情報の解析・提供、各種の試験検査、調査研究、研修指導などを行っています。

(3) 主な保健医療従事者の状況

本県における主な保健医療従事者数（人口10万対）は、保健師、看護師及び准看護師が全国を上回っており、医師、歯科医師、薬剤師及び助産師が全国を下回っています。（表9）

表9 主な保健医療従事者の状況

	青森県		全国	
	実数	人口10万対	実数	人口10万対
医師	2,631	212.6	323,700	256.6
歯科医師	699	56.5	104,118	82.5
薬剤師	1,996	161.3	250,585	198.6
保健師	709	58.9	60,299	48.3
助産師	340	28.2	38,063	30.5
看護師	13,463	1,118.2	1,311,687	1,049.8
准看護師	4,374	363.3	254,329	203.5

資料：医師、歯科医師、薬剤師（厚生労働省「令和2年医師・歯科医師・薬剤師統計」）
保健師、助産師、看護師、准看護師（厚生労働省「令和4年衛生行政報告例」）

3 患者の受療状況

(1) 患者数

令和2年10月20日(火)～23日(金)の期間のうち、各医療機関に指定した1日における国民の受療状況をまとめた厚生労働省の「令和2年患者調査」によると、県内に住所を有する者が医療機関で受療（県外で受療したものを含む。）した数は、入院13.2千人、外来69.7千人、総数82.9千人となっています。これは、調査を実施した特定の1日において、県民の約14.9人に1人が医療施設で受療したことになります。（青森県の人口を1,237,984人（総務省統計局令和2年国勢調査に関する不詳補完結果（参考表））とした場合）

① 施設種類・性・年齢階級別患者数

ア 総数（入院・外来患者数）

令和2年調査の総数 82.9 千人について施設の種類の別みると、病院 27.8 千人（総数の 33.5%）、一般診療所 44.7 千人（同 53.9%）、歯科診療所 10.4 千人（同 12.5%）となっています。（表 10）

年齢階級別にみると、65 歳以上では 47.6 千人（同 57.4%）となっています。（表 11）

年次推移では、患者数が最も多かった平成 5 年（入院 21.2 千人、外来 98.1 千人、総数 119.3 千人）と比較すると、69.5%に減っています。

表 10 患者数 入院・外来一施設一年次別（千人）

区分	入院			外来			
	総数	病院	一般診療所	総数	病院	一般診療所	歯科診療所
昭和62年	20.2	17.2	3.0	90.1	23.6	52.3	14.2
平成2年	21.5	18.2	3.3	97.2	26.8	56.6	13.8
5年	21.2	17.9	3.4	98.1	26.7	57.2	14.2
8年	19.6	16.8	2.8	96.8	30.7	53.2	12.9
11年	19.3	16.8	2.5	92.7	28.7	50.9	13.1
14年	17.6	15.3	2.3	87.2	27.2	49.5	10.5
17年	18.0	16.0	1.9	87.5	22.9	51.4	13.2
20年	16.5	14.9	1.6	82.5	20.8	48.3	13.4
23年	15.5	14.3	1.2	85.6	20.0	53.9	11.7
26年	14.6	13.8	0.8	76.6	19.2	46.1	11.3
29年	14.0	13.3	0.7	79.7	18.3	49.0	12.4
令和2年	13.2	12.6	0.6	69.7	15.2	44.1	10.4

資料：厚生労働省「患者調査」

表 11 患者数 入院・外来一性一年齢階級別（千人）

年齢階級	入院			外来		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	13.2	6.0	7.2	69.7	30.1	39.6
0～4歳	0.1	0.1	0.0	2.4	1.4	1.0
5～14	0.1	0.0	0.0	3.2	1.7	1.5
15～24	0.1	0.1	0.1	2.0	1.0	1.0
25～34	0.3	0.1	0.2	3.0	1.3	1.7
35～44	0.5	0.3	0.3	4.6	2.0	2.6
45～54	0.9	0.5	0.4	6.5	2.8	3.7
55～64	1.4	0.8	0.6	10.0	4.5	5.6
65～74	2.9	1.7	1.2	17.0	7.5	9.4
75～84	3.3	1.5	1.8	14.3	5.9	8.4
85歳以上	3.5	1.0	2.5	6.6	2.0	4.6
不詳	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1
65歳以上(再掲)	9.7	4.2	5.5	37.9	15.5	22.4
70歳以上(再掲)	8.4	3.4	5.0	30.4	12.1	18.3
75歳以上(再掲)	6.8	2.5	4.3	20.9	8.0	13.0

※ 千人単位のため、男女の合計と総計が一致しない場合がある。

資料：厚生労働省「令和2年患者調査」

(2) 受療率(人口10万人に対する患者数)

本県における入院・外来を合わせた受療率は、人口10万人当たり6,701で、最も多い平成8年(7,848)より1,147減少しました。入院、外来別でみると、入院1,068、外来5,633で、平成8年(入院1,322、外来6,526)より入院は254減少し、外来は893減少しています。(表12)

表12 受療率 入院－外来・年次別(人口10万対)

	平成8年	平成11年	平成14年	平成17年	平成20年	平成23年	平成26年	平成29年	令和2年
総数	7,848	7,590	7,137	7,342	7,112	7,414	6,901	7,330	6,701
入院	1,322	1,306	1,202	1,253	1,186	1,136	1,103	1,095	1,068
外来	6,526	6,284	5,935	6,089	5,926	6,277	5,798	6,235	5,633

資料：厚生労働省「令和2年患者調査」

① 施設種類別受療率

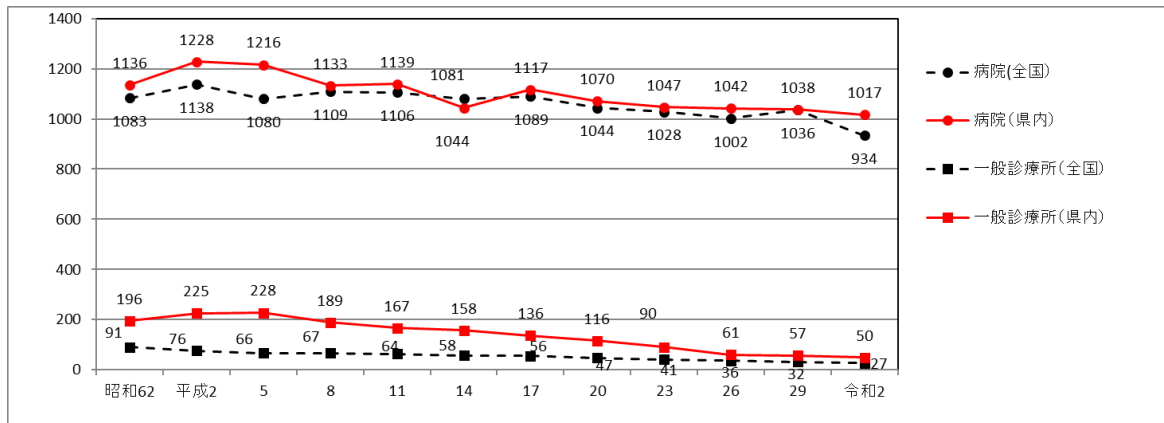
ア 入院受療率

入院について、施設の種類別にみると、病院 1,017（入院患者総数の95.3%）、一般診療所 50（同4.7%）となっています。（図12）

イ 外来受療率

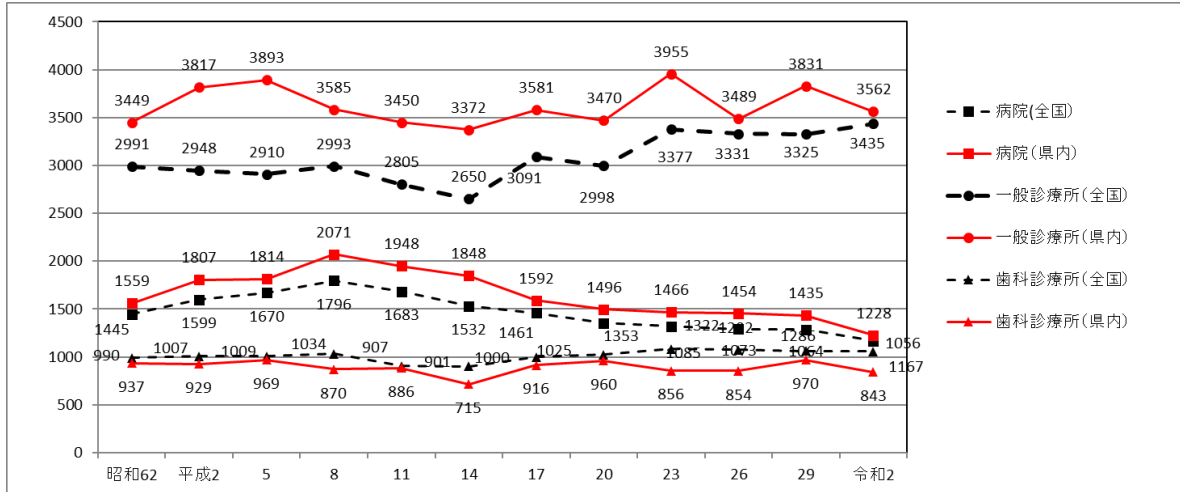
外来について、施設の種類別にみると、病院 1,228（外来患者総数の21.8%）、一般診療所 3,562（同63.2%）、歯科診療所は 843（同15.0%）となっています。（図13）

図12 入院受療率の推移 施設種類別・全国－青森県（人口10万対）



資料：厚生労働省「患者調査」

図13 外来受療率の推移 施設種類別・全国－青森県（人口10万対）



資料：厚生労働省「患者調査」

② 性・年齢階級別受療率

ア 入院受療率

入院受療率について性別でみると、男性1,034、女性1,097とほぼ同率になっています。年齢階級別にみると、加齢とともに上昇傾向を示しています。（図14、表13）

イ 外来受療率

外来受療率について性別でみると、男性5,160、女性6,055と女性が高くなっています。年齢階級別にみると、0～4歳から下降し15～24歳で2,064と最も低下しますが、その後加齢とともに上昇しています。（図15、表13）

図14 年齢階級別入院受療率 全国－青森県（人口10万対）

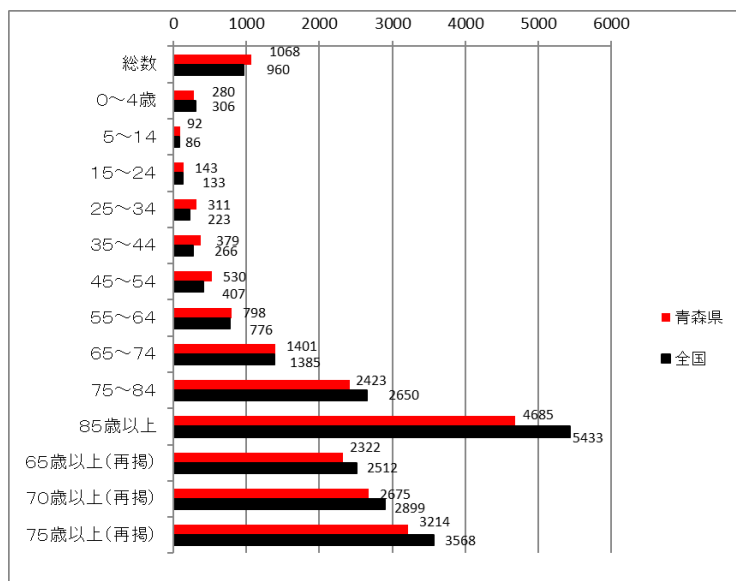
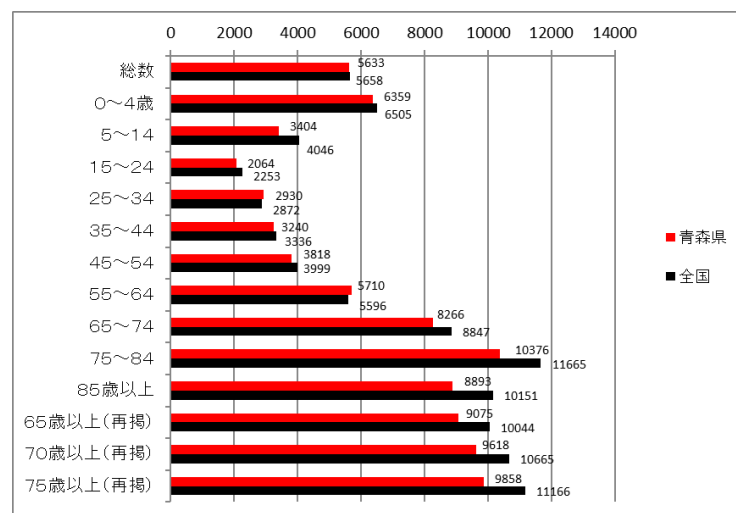


図15 年齢階級別外来受療率 全国－青森県（人口10万対）



資料：厚生労働省「令和2年患者調査」

表13 年齢階級別受療率 入院－外来・性別（人口10万対）

年齢階級	入院			外来		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	1,068	1,034	1,097	5,633	5,160	6,055
0～4歳	280	376	182	6,359	7,335	5,350
5～14	92	89	95	3,404	3,561	3,239
15～24	143	130	156	2,064	1,947	2,192
25～34	311	204	424	2,930	2,392	3,500
35～44	379	364	394	3,240	2,770	3,719
45～54	530	545	517	3,818	3,272	4,353
55～64	798	969	639	5,710	5,305	6,085
65～74	1,401	1,730	1,111	8,266	7,855	8,628
75～84	2,423	2,793	2,179	10,376	10,815	10,087
85歳以上	4,685	4,765	4,653	8,893	9,623	8,606
65歳以上(再掲)	2,322	2,440	2,240	9,075	9,016	9,117
70歳以上(再掲)	2,675	2,788	2,602	9,618	9,785	9,511
75歳以上(再掲)	3,214	3,339	3,144	9,858	10,485	9,509

資料：厚生労働省「令和2年患者調査」

③ 傷病分類別受療率

ア 入院受療率

入院受療率について傷病別にみると、「精神及び行動の障害」223、「循環器系の疾患」177、「神経系の疾患」138の順で高くなっています。

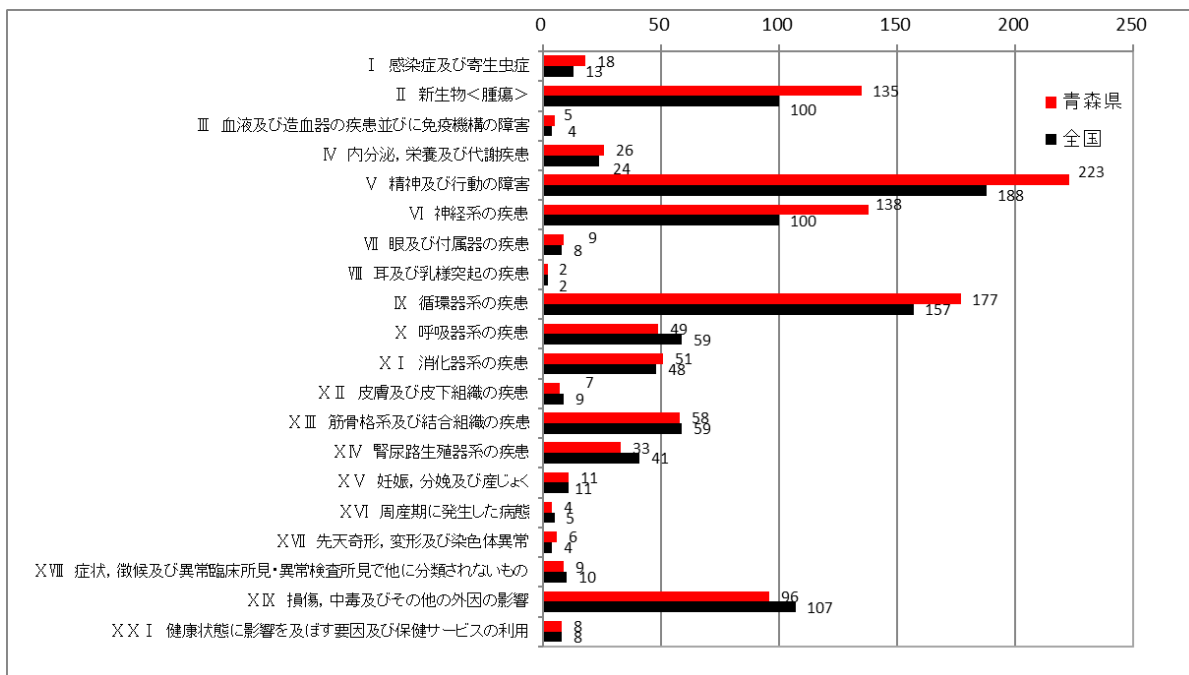
全国と比較すると、「新生物<腫瘍>」（本県135、全国100）、「精神及び行動の障害」（本県223、全国188）のほか複数分類において高くなっており、「損傷、中毒及びその他の外因の影響」（本県96、全国107）等が低くなっています。（図16、表14）

イ 外来受療率

外来受療率について傷病別にみると、「循環器系の疾患」854、「消化器系の疾患」838、「筋骨格系及び結合組織の疾患」742の順で高くなっています。

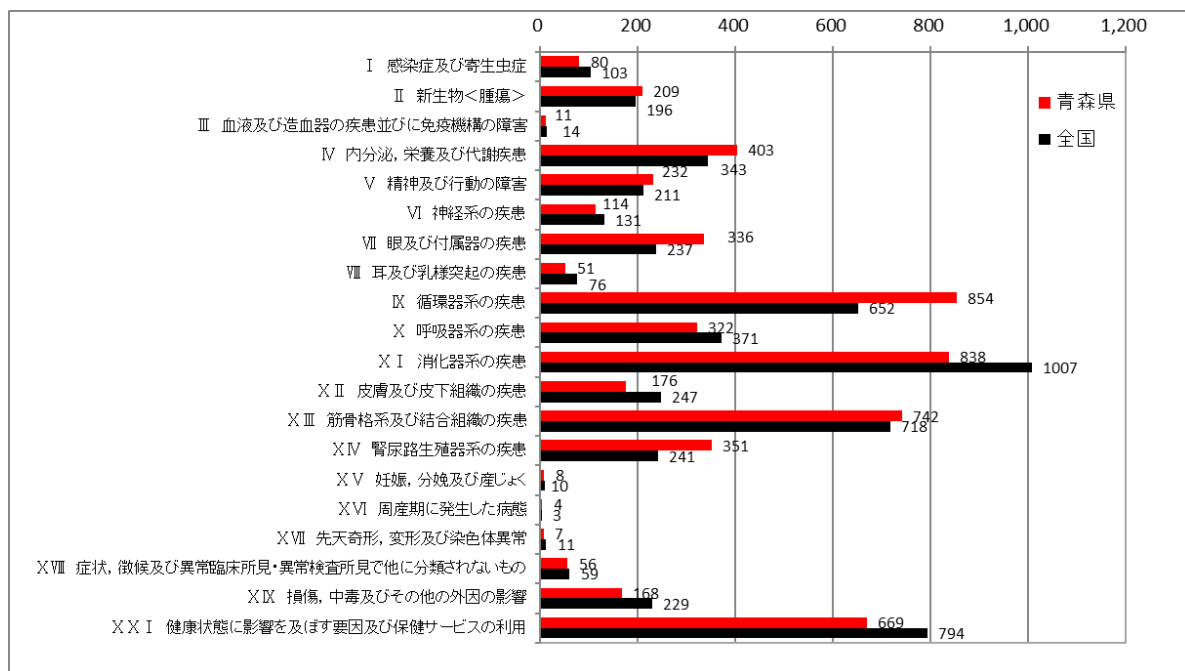
全国と比較すると、「循環器系の疾患」（本県854、全国652）、「内分泌、栄養及び代謝疾患」（本県403、全国343）、「腎尿路生殖器系の疾患」（本県351、全国241）、「眼及び付属器の疾患」（本県336、全国237）のほか複数分類において高くなっており、「消化器系の疾患」（本県838、全国1,007）、「損傷、中毒及びその他の外因の影響」（本県168、全国229）等が低くなっています。（図17、表14）

図 16 傷病分類別入院受療率 全国—青森県（人口 10 万対）



資料：厚生労働省「令和 2 年患者調査」

図 17 傷病分類別外来受療率 全国—青森県（人口 10 万対）



資料：厚生労働省「令和 2 年患者調査」

表14 傷病分類別受療率 入院－外来・施設別（人口10万対）

全傷病分類	入院			外来			
	総数	病院	一般診療所	総数	病院	一般診療所	歯科診療所
総数	1,068	1,017	50	5,633	1,228	3,562	843
I 感染症及び寄生虫症	18	18	-	80	26	54	-
II 新生物<腫瘍>	135	134	1	209	154	55	-
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	5	5	-	11	5	6	-
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	26	24	1	403	92	312	-
V 精神及び行動の障害	223	222	1	232	139	93	-
VI 神経系の疾患	138	138	-	114	49	65	-
VII 眼及び付属器の疾患	9	5	4	336	37	299	-
VIII 耳及び乳様突起の疾患	2	2	-	51	9	43	-
IX 循環器系の疾患	177	162	15	854	166	688	-
X 呼吸器系の疾患	49	46	3	322	43	279	-
XI 消化器系の疾患	51	45	6	838	60	125	652
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	7	5	1	176	35	141	-
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	58	57	1	742	154	588	-
XIV 腎尿路生殖系系の疾患	33	28	5	351	103	248	-
XV 妊娠、分娩及び産じょく	11	10	1	8	5	4	-
XVI 周産期に発生した病態	4	4	-	4	4	-	-
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	6	6	-	7	3	4	-
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	9	7	1	56	28	28	-
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	96	92	3	168	54	112	2
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	8	2	6	669	60	419	190

※ 千人単位のため各項目の合計が総数と合わない場合がある

資料：厚生労働省「令和2年患者調査」

(3) 患者の動向

県では、患者の受療動向を把握するため、「青森県受療動向調査」を実施しました。

調査対象者：青森県内に居住する国民健康保険被保険者、後期高齢被保険者、全国健康保険協会加入者

調査機関：平成31年2月審査から令和2年1月審査までのうち、平成31年1月診療から令和元年12月診療まで

① 二次保健医療圏別にみた入院患者の動向

入院患者の動向を二次保健医療圏別にみると、圏域外の患者が流入する割合では、①津軽地域15.5%、②青森地域15.0%、③八戸地域8.3%、④上十三地域7.6%、⑤下北地域3.1%、⑥西北五地域2.2%の順となっており、その流入元をみると、隣接した地域からの流入が多くなっています。（表15）

また、圏域外へ流出する割合では、①西北五地域40.8%、②上十三地域27.9%、③下北地域25.1%、④八戸地域8.0%、⑤青森地域7.9%、⑥津軽地域6.3%となっており、その流出先をみると、西北五地域からは津軽地域へ、上十三地域からは八戸地域へ、下北地域からは青森地域への流出が多くなっています。（表16）

表 15 施設所在地（二次保健医療圏）からみた入院患者の動向 (%)

	患者住所地						患者流入割合	
	津 軽	八 戸	青 森	西北五	上十三	下 北		
医療機関 住所地	津 軽	84.5	0.4	5.4	8.5	0.6	0.6	15.5
	八 戸	0.1	91.7	0.2	0.1	7.3	0.6	8.3
	青 森	4.3	1.1	85.0	3.9	3.1	2.6	15.0
	西北五	1.9	0.0	0.3	97.8	0.0	0.0	2.2
	上十三	0.0	5.6	0.6	0.0	92.4	1.4	7.6
	下 北	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	96.9	3.1

資料：青森県受療動向調査

表 16 患者住所地（二次保健医療圏）からみた入院患者の動向 (%)

	医療機関住所地							患者流出割合	
	津 軽	八 戸	青 森	西北五	上十三	下 北	県 外		
患者住所 地	津 軽	93.7	0.1	4.8	0.4	0.0	0.0	1.0	6.3
	八 戸	0.5	92.0	1.4	0.0	2.1	0.0	4.0	8.0
	青 森	5.9	0.2	92.1	0.1	0.2	0.0	1.5	7.9
	西北五	24.3	0.2	11.2	59.2	0.0	0.0	5.0	40.8
	上十三	1.4	14.8	7.3	0.0	72.1	1.1	3.2	27.9
	下 北	2.9	2.4	12.9	0.0	2.3	74.9	4.6	25.1

資料：青森県受療動向調査

② 患者の住所地（市町村）からみた入院患者の動向

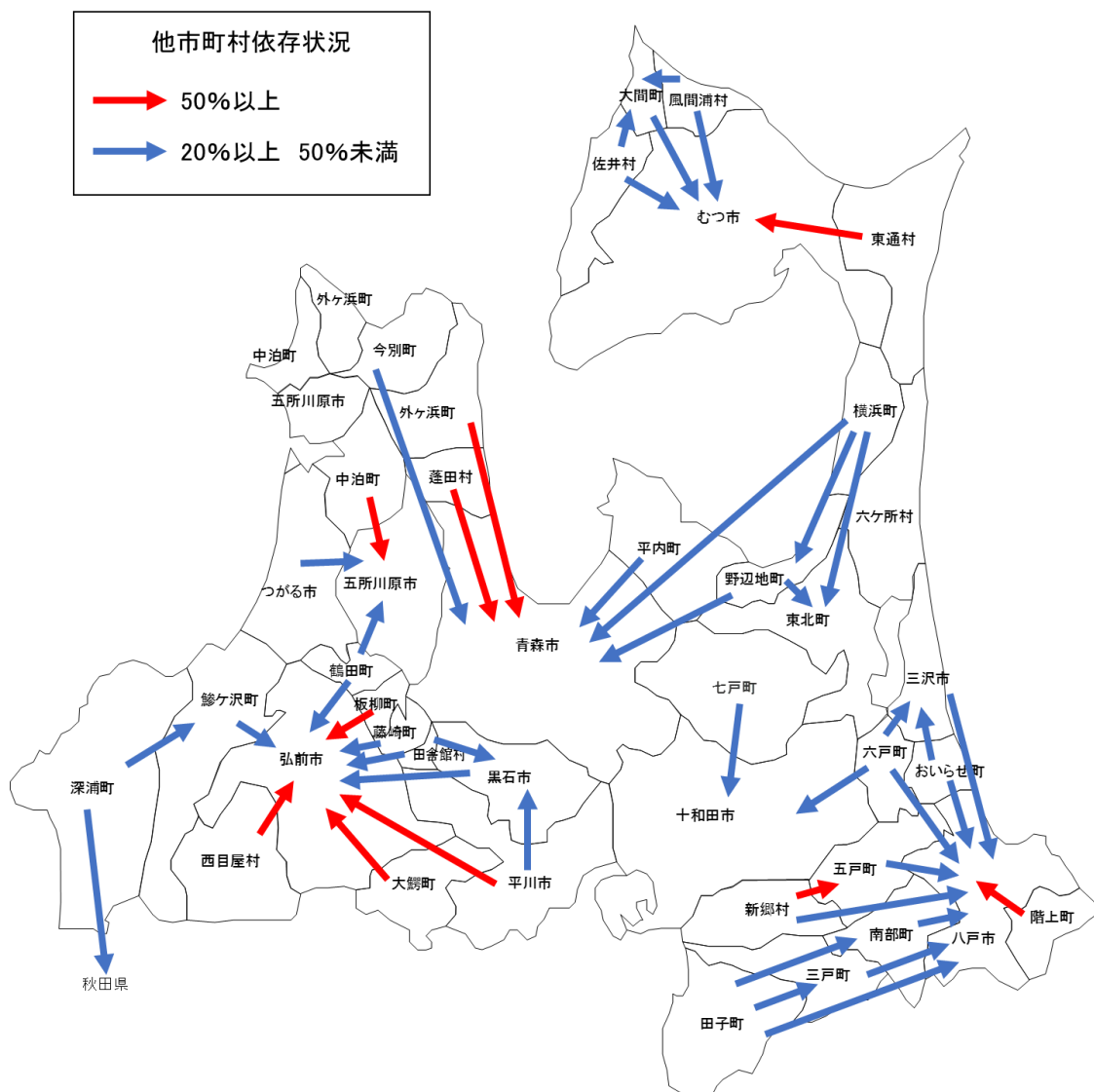
患者がどの地域の医療施設に入院したか、住所地の市町村毎にみると、多くは自らの二次保健医療圏内で入院していますが、その割合は圏域間で大きく異なります。（表 17、図 18）

表17 患者住所地（市町村）からみた入院患者の動向

圏域	市町村	受療先1		受療先2		受療先3		受療先4		受療先5	
		施設住所地	率	施設住所地	率	施設住所地	率	施設住所地	率	施設住所地	率
津軽	弘前市	弘前市	89.5%	青森市	3.7%	黒石市	3.2%	藤崎町	0.9%	県外(隣接道県以外)	0.9%
	黒石市	黒石市	67.2%	弘前市	21.5%	青森市	6.0%	藤崎町	2.3%	田舎館村	1.1%
	平川市	弘前市	62.0%	黒石市	24.3%	青森市	5.9%	平川市	3.8%	藤崎町	1.5%
	西目屋村	弘前市	97.3%	板柳町	1.7%	秋田県	0.5%	岩手県	0.3%	県外(隣接道県以外)	0.1%
	藤崎町	弘前市	49.1%	藤崎町	37.1%	黒石市	7.7%	青森市	3.7%	田舎館村	1.5%
	大鰐町	弘前市	66.2%	大鰐町	13.6%	青森市	9.3%	黒石市	7.7%	県外(隣接道県以外)	1.4%
	田舎館村	弘前市	44.9%	黒石市	29.3%	藤崎町	10.9%	青森市	8.1%	田舎館村	5.4%
	板柳町	弘前市	52.8%	板柳町	30.1%	青森市	6.1%	藤崎町	4.7%	五所川原市	3.6%
	八戸市	八戸市	92.5%	岩手県	1.9%	県外(隣接道県以外)	1.9%	おいらせ町	1.3%	青森市	1.2%
八戸	おいらせ町	八戸市	39.1%	おいらせ町	28.0%	三沢市	20.3%	十和田市	5.0%	青森市	2.5%
	三戸町	三戸町	41.8%	八戸市	30.7%	南部町	17.5%	岩手県	4.7%	県外(隣接道県以外)	2.1%
	五戸町	五戸町	58.5%	八戸市	32.7%	十和田市	2.3%	岩手県	1.7%	青森市	1.7%
	田子町	八戸市	34.6%	三戸町	30.9%	南部町	23.2%	岩手県	7.1%	県外(隣接道県以外)	2.4%
	南部町	八戸市	44.9%	南部町	44.9%	三戸町	4.3%	岩手県	3.0%	青森市	1.2%
	階上町	八戸市	92.8%	青森市	3.4%	県外(隣接道県以外)	1.1%	南部町	1.0%	岩手県	0.8%
	新郷村	五戸町	51.7%	八戸市	32.6%	十和田市	5.9%	南部町	3.7%	三戸町	2.5%
	青森市	青森市	91.6%	弘前市	3.3%	黒石市	2.3%	県外(隣接道県以外)	1.1%	藤崎町	0.7%
	平内町	平内町	54.3%	青森市	40.5%	弘前市	2.0%	野辺地町	1.2%	県外(隣接道県以外)	0.8%
青森	外ヶ浜町	青森市	68.2%	外ヶ浜町	28.4%	弘前市	1.5%	県外(隣接道県以外)	1.2%	今別町	0.3%
	今別町	青森市	49.7%	今別町	27.8%	外ヶ浜町	18.6%	黒石市	2.1%	弘前市	1.1%
	蓬田村	青森市	80.1%	外ヶ浜町	16.0%	県外(隣接道県以外)	2.2%	弘前市	1.1%	五所川原市	0.4%
	五所川原市	五所川原市	61.3%	弘前市	18.5%	青森市	12.3%	つがる市	2.9%	県外(隣接道県以外)	1.2%
	つがる市	五所川原市	49.4%	弘前市	18.6%	つがる市	11.8%	青森市	11.6%	鱒ヶ沢町	4.6%
	鱒ヶ沢町	鱒ヶ沢町	44.5%	弘前市	28.4%	五所川原市	17.2%	青森市	5.6%	つがる市	1.9%
	深浦町	秋田県	37.5%	鱒ヶ沢町	21.6%	弘前市	19.8%	五所川原市	9.8%	青森市	8.2%
	鶴田町	五所川原市	37.6%	弘前市	29.2%	板柳町	17.0%	青森市	8.0%	つがる市	4.0%
	中泊町	五所川原市	60.7%	弘前市	18.6%	青森市	15.9%	県外(隣接道県以外)	2.0%	つがる市	1.5%
上十三	十和田市	十和田市	72.3%	八戸市	14.1%	青森市	3.8%	県外(隣接道県以外)	2.4%	三沢市	1.5%
	三沢市	三沢市	61.7%	八戸市	26.2%	十和田市	3.5%	青森市	2.6%	岩手県	1.8%
	野辺地町	野辺地町	48.9%	青森市	21.2%	東北町	20.5%	十和田市	2.3%	弘前市	2.1%
	七戸町	七戸町	45.6%	十和田市	26.1%	八戸市	7.4%	青森市	7.2%	東北町	6.1%
	六戸町	十和田市	41.0%	三沢市	22.4%	八戸市	21.6%	県外(隣接道県以外)	3.9%	青森市	3.0%
	横浜町	野辺地町	29.9%	青森市	22.2%	東北町	21.0%	むつ市	19.1%	弘前市	2.5%
	東北町	東北町	30.2%	十和田市	18.5%	七戸町	15.4%	八戸市	11.5%	三沢市	7.4%
	六ヶ所村	八戸市	17.2%	六ヶ所村	14.7%	野辺地町	14.5%	三沢市	11.7%	東北町	11.3%
	むつ市	むつ市	75.8%	青森市	13.1%	弘前市	2.9%	県外(隣接道県以外)	2.2%	八戸市	2.1%
下北	大間町	大間町	45.8%	むつ市	25.4%	北海道	11.6%	青森市	5.8%	八戸市	3.9%
	東通村	むつ市	51.3%	東通村	20.7%	青森市	14.1%	八戸市	4.3%	弘前市	3.9%
	風間浦村	むつ市	40.2%	大間町	32.3%	青森市	14.2%	北海道	4.5%	県外(隣接道県以外)	3.3%
	佐井村	むつ市	36.4%	大間町	33.9%	北海道	13.9%	青森市	9.1%	県外(隣接道県以外)	3.2%

資料：青森県受療動向調査

図 18 患者住所地（市町村別）からみた医療依存の動向



資料：青森県受療動向調査

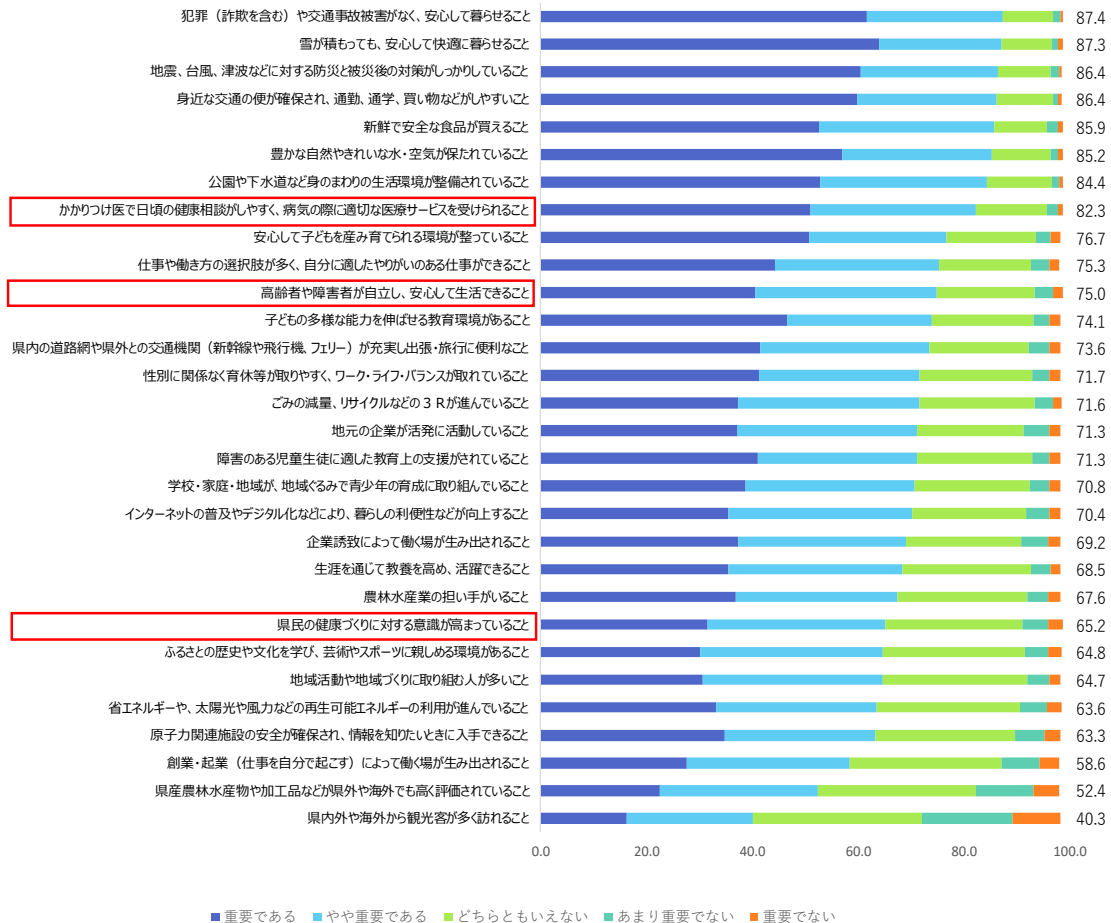
4 県民の意識

医療や健康に関する県民の関心は非常に高くなっています。「青森県民の意識に関する調査」（令和5年2月）によると、次のとおりです。

(1) 生活局面の重要度

生活局面の「重要度」について、30の局面を設定し、「重要である」、「やや重要である」、「どちらともいえない」、「あまり重要でない」、「重要でない」の5段階により回答を求めたところ、保健医療に関する項目については、「重要である」「やや重要である」の割合は、「かかりつけ医で日頃の健康相談がしやすく、病気の際に適切な医療サービスを受けられること」が82.3%、「高齢者や障害者が自立し、安心して生活できること」が75.0%、「県民の健康づくりに対する意識が高まっていること」が65.2%などとなっています。（図19）

図19 生活局面の現状認識（重要度）



(2) 生活局面の満足度

生活局面の「満足度」について、30の局面を設定し、「満たされている」、「やや満たされている」、「どちらともいえない」、「あまり満たされていない」、「満たされていない」の5段階により回答を求めたところ、保健医療に関する項目については、「満たされている」「やや満たされている」の割合は、「かかりつけ医で日頃の健康相談がしやすく、病気の際に適切な医療サービスを受けられること」が46.6%、「県民の健康づくりに対する意識が高まっていること」が32.1%、「高齢者や障害者が自立し、安心して生活できること」が27.7%などとなっています。（図20）

図20 生活局面の現状認識（満足度）

